

カミングアウトのタイミングの問題

—昨日入院し、昨日 Dr から治療方針の説明を家内と共に受けた。

まず、精密検査の結果から、肺ガンで他の臓器にも転移していることから、手術、X線治療が手遅れであり、抗ガン剤治療を選択せざるをえない旨の説明があった。

次にガンのタイプに適応すると思われる抗がん剤の選択理由、抗がん剤投与と経過観察、その評価に要する日数、評価からのその後の治療と緩和ケアの併用、来週から治療を始めたい、等々の説明であった。

医療サイドとしては当然だが、抗がん剤の副作用についてかなり詳細に説明され、ここでも同意書署名を求められた。

抗ガン剤は徐々に投与していくと思っていたが、点滴で一気に投与し、投与後3日～7、10日が最も副作用が現れ、その副作用に耐えるだけの体力があるかどうか、その後の治療方針の判断材料になるとか。

まして、世間一般にもまだまだ抗がん剤の副作用が強いと思われているだけに、Dr から最近では副作用を抑える治療も進んで来ていると言われても、やはり、当事者としてはかなりのフレッシャーを抱かざるをえない。

要は、治療実施時の副作用に当事者が精神的にも肉体的にもどう対応し得るかに抗がん剤治療の鍵がありそうなことが分かってくると、本人は不安になり、あれこれ葛藤せざるを得ない。

副作用が強いので余命が短くなってもいいから治療を辞めようと思うのか、この副作用を耐えることで次の治療段階へ進みガンの進行を抑えられるかと思うのか、ここの葛藤は並大抵でないと、現時点では想像できる。

その治療を受けるも受けないも本人に選択権がある時代とはいえ、医療知識・情報が乏しい本人側からすれば、納得いくまでインホームド・コンセントを受けられるとはいえ、そうそう質問・理解できるものでないと思う。

ガンの入院では本来なら人との係わり合いを重視されるべきだが、個人差はあるようだが治療段階初期は副作用（嘔気、嘔吐、脱力感、食欲不振、しびれ、かゆみ、等々）で本人自身が心理的に人と会いたい症状、状況でないだろうだけに、当事者になってつくづくカミングアウトのタイミングに難しい問題があることを思い知らされた。